

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号		05 06 02	中期総合計画主要施策番号		3-02	担当課	部・課	衛生部・薬事管理課		
事業名		献血普及啓発事業					内線	2674		
							E-mail	yakuji@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	県民医療に必要不可欠な血液製剤を県民の献血により全て確保するため、献血への理解と協力を求める啓発活動を行う。								
	事業の必要性	<p>【現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)】</p> <p>医療に欠かせない血液製剤を安定して供給するには、献血者を継続して確保する必要がある。しかしながら、近年、献血者の減少、特に10代、20代の若年層の減少が著しい状況が続いている。</p> <p>【原因分析(ギャップが発生している原因は何か)】</p> <p>少子高齢化の進展で、献血可能層が減少するとともに10代、20代の献血離れにより、献血者の確保が難しくなっている。加えて、安全な血液製剤を供給するため、採血時の問診が強化され、献血者が減少している。</p> <p>【課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)】</p> <p>県民医療に必要不可欠な血液製剤を安定的に供給するため、献血者を継続して確保するべく、広く県民に献血の重要性についての理解を深める必要がある。</p> <p>少子高齢化の進展で献血可能層が減少することから、若い世代への呼びかけを強化する必要がある。</p>								
		事業内容	<p>献血者を確保するため、献血への理解と協力を求める啓発活動を実施する。</p> <p>啓発の集中実施:街頭キャンペーン、ラジオスポット広告 体験・実践機会の提供:献血ルーム体験運動、定例献血スポットキャンペーン 若い世代への啓発:高校生リーフレット配布、高校訪問による協力要請</p>							
		実施期間	S40 ~		根拠法令等 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律					
	成果と達成状況	事業の目指す成果		達成度(期待どおり)の判定基準(H20)			達成状況		評価	
<p>献血への理解と協力を求めるための啓発活動を行い、県内で必要とする献血者を確保し、血液の安定供給を図る。</p> <p>(H24年度献血目標達成率:100%)</p>		<p>献血目標達成率を96.2%程度まで増加させる。</p>			<p>目標献血者数80,000人に対する達成率は100.1%となり、県内で必要とする血液を県内でまかなうことができ、H24の目標達成に向け、期待どおりの成果が得られた。</p>		<p>a.期待以上</p> <p>b.期待どおり</p> <p>c.やや下回る</p> <p>d.期待以下</p>			
事業コスト	区 分		単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要			
	最終予算額 (A)		千円	5,228	5,228	4,924	国庫・県単	県単		
	決 算 額 (B)		千円	4,594	4,583		実施方法	直接		
	B(H21はA)のうち一般財源		千円	4,594	4,583	4,924	歳出節別内訳等	<p>報償費: 449</p> <p>需用費: 1,689</p> <p>役務費: 1,516</p>		
	概 算 人件費		人	2.80	2.80	2.80	(単位: 千円)			
	概算事業費 (B(H21はA) + C)		千円	24,586	24,600	24,941				
事業実績	内 容		単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績			
	高校生向け啓発リーフレット		枚	66,100	67,500	22,000	献血量:目標31,110Lに対し30,859L(達成率99.2%)			
	ラジオスポット放送		日	158	158	89	高校訪問による献血要請:107校			
							献血ルーム体験運動:4か所10日間 定例献血スポットキャンペーン:4か所10日間			
事業の課題	区 分		判 定 ・ 説 明							
	事業のニーズの変化		増加	横ばい	減少	判 定 の 説 明	<p>引き続き献血者を確保する必要がある。</p> <p>県は市町村と協力して円滑に献血の受け入れが実施されるよう必要な措置を講ずる責務があるため県の関与を見直す余地は当面ない。</p> <p>有効性(啓発普及)を高めるため、21年度も中・高校生からポスターの図案募集や、このポスターを活用した広報を行うなど若年層への広報を重点的に行う。</p>			
	県の関与を見直す余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	有効性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
	効率性を高める余地		余地なし	当面余地なし	余地あり					
課題の総括		<p>10代、20代の献血者は、前年よりわずかに増加(H19:19,054人 H20:19,177人)したものの、5年前と比べ10,415人減少(対15年度比64.8%)しており、今後、長期的に安定した献血者数を確保するためには、引き続き若い世代への啓発を重点的に行っていく必要がある。</p>								